

内容（前半）

経済学 第1～10章

人は「合理的」に行動する

SCP(ポーター)とRBV(バーニー)

情報の非対称性

取引費用理論

ゲームの理論

リアル・オプション

組織心理学 第11～17章

組織学習によるイノベーション 「両利き」

経験するプロセス 「サーチ」「アスピレーション」

知を得るプロセス

「代理体験」「知の創造(SECI)」「知の移転」

記憶するプロセス

「ルーティン」「シェアードメンタルモデル」

内容（後半）

個人心理学 第18～23章

さまざまな個別理論の集合体

リーダーシップ・モチベーション

認知バイアス・感情の理論

センス・メイキング(腹落ちの理論)

社会学 第24～32章

関係性のメカニズム

ネットワーク理論

正当性の制度理論

交渉力の資源依存理論

生態学の理論

リーダーシップの理論（学者理論）

リーダーシップ研究の歴史	ポイント
1 個性 の理論 (trait) 1940～	リーダーの 素養
2 行動 の理論 (behavior) 1960～	リーダーの 行動スタイル
3 コンテジエンシー 理論 1970～	状況 によって異なる (有事のリーダー)
4 LMX 理論 (リーダー・メン バー・エクチェンジ) 1980～	だれが部下か によっ て変わる
5 トランザクショナル LS 1990～	関係性 を重視する
6 トランスフォーメショナル LS (ビジョナリー) 1990～	ビジョン を示す
7 シェアード 2000～	全員 がリーダー

「世界標準の経営理論」(入江章栄)より

PM理論 (三隅)
1966～

サーバントLS
1970～



オーセンティック
(ありのまま)
LS 2000～

モチベーションの理論（学者理論）

「世界標準の経営理論」(入江章栄)より

モチベーション研究の歴史	ポイント
1 ニーズ の理論 1940～ (A.マズロー)	欲求階層説
2 期待 の理論 1960～ (ビクトル・ブルーム)	やればできそう 見返りもある
3 ゴール 設定理論 1960～ (エドウィン・ロック)	ストレッチゴール 明確なフィードバック
4 社会認知 理論 1970～ (バンデューラ)	自己効力感 (自分はできる)
5 職務特性 理論 1970～ (リチャード・ハックマン)	多様性、一貫性、有用性、自律性、結果が見える
6 プロソーシャル 2000～ (ダニエル・バトソン)	お役立ち感

(アドラー)
私は大丈夫
仲間を信頼できる
私は貢献できる
1870年2月7日 -
1937年5月28日

(テラー)
科学的管理法
1856年3月20日 -
1915年3月21日

組織学習について

ダイナミック
ケイパビリティ

3つの競争の形

- ・IO型>SCP競争戦略
- ・チェンバレン型(独占市場)>RBV
- ・シュンペンター型>ダイナミックC

探索(サーチ・ザイジング)

深化させる

両利きの経営

「組織が学習する」とは

経験して

知を得て

記憶する

保存する

引き出す

ルーティン

シェアードメンタルモデル

トランザクティブメモリーシステム

観察する
(代理体験)

移転する

組み合わせる
(創造)

CECIモデル
形式知・暗黙知

個人の発達段階を問う

●どうしたら、もっと・・・

発達段階	他者は	思考・行動	養われる力
相互発達	ともに成長する仲間	他者に貢献したい	今ここ全体最適
自己主導	協力者 仲間	私には、信じる道がある	言語化力 価値体系
他者依存	自己イメージ形成に必要	八方美人 嫌われたくない	空気を読む力
道具主義	我欲の道具 (弱肉強食)	損したくない 大した奴いない	ハッキリ意見を言える力

リーダーシップに出会う瞬間 (有冬典子) より

組織の成熟度を問う

●どうしたら、もっと・・・

成熟度	合目的	展開	変化
AA	独自性 デファクト	自主自律	未然防止 創造性
A	同じ方向 時間軸	連携 ガッチリ	再発防止 自ら思考
B	だいた 同じ方向	協力が はじまる	人まねが はじまる
C	向きが バラバラ	関係が バラバラ	その場 対応

日本経営品質賞 審査基準より

